



第75回

## 企画展 【青木コレクション展 —忠臣蔵展—】

青木コレクションには多くの忠臣蔵関係の作品が含まれています。江戸時代はこの演目を上演する

と必ず来客が見込めたので、なんにでも効く薬を意味する「<sup>どくしんと</sup>湯」と呼ばれていました。

日本人の誰もが知っているこの「赤穂事件」は元禄14年（1701）3月14日、江戸城本丸松の廊下で赤穂藩主浅野内匠頭長矩が吉良上野介義央に斬りつけたのがはじまりです。浅野内匠頭は当日切腹、お家断絶、領地は没収され、吉良上野介にはお咎めなしの裁きが決まります。この裁きを不服とした赤穂藩の旧藩士47人は翌年12月14日に元藩主浅野内匠頭の仇を討つために吉良上野介の屋敷に討入り、本懐を遂げます。

元禄の太平の世を騒がせたこの仇討ちは寛延元年（1748）8月、大坂の竹本座で人形浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」の名で初めて上演されて人気を博し、後に歌舞伎や講談などにも取り上げられました。「忠臣蔵」の名称は造成語で「平仮名」の47文字と討ち入りした赤穂藩旧藩士の47人とを掛けているといわれています。図の「忠臣蔵 十一段目一 夜打押寄」は、いよいよ主君の敵の屋敷へ討入りに向かう義士たちを描いたものです。雪が降り積もった橋を整然と渡る姿は、討入り前の緊張感や静けさを感じさせます。



「忠臣蔵 十一段目一 夜打押寄」

忠臣蔵は現在、歌舞伎のほかにもテレビや映画、小説の題材として扱われています。この度は浮世絵に最も描かれた題材の一つ「忠臣蔵」を当時の人たちがどのように鑑賞していたか、各絵師の作品を通してお楽しみください。

馬頭広重美術館 学芸員 塩野目育枝

【会 期】平成23年12月3日(土)～  
平成24年1月15日(日)

【休 館 日】月曜日(祝日の場合は翌日)  
年末年始(12月26日～1月2日)

【開館時間】午前9時30分～午後5時まで  
(但し、入館は午後4時30分まで)

【入館料】 大 人 500円 (450円)  
高・大学生 300円 (270円)

※ ( ) は20名以上の団体料金

※ 70歳以上の高齢者、中学生以下は無料

※ 障がい者手帳をお持ちの方、付き添い1名は半額

## 広重紅葉まつり

11月27日(日)、南町小公園で行われた広重紅葉まつりのひとコマ。ちびっこワールドが主催するわくわくパルーンと金子酒造の酒蔵を利用したヴァイオリンとジャズの酒蔵コンサート。



## ミニギャラリー